



成隣だより

令和7年1月31日
第10号
昭島市立成隣小学校
校長 松川 靖弘
TEL 042-541-0068



HPはこちら

まとめの季節と節分

副校長 川上卓哉

寒さ厳しい季節が続いておりますが、子供たちの元気な姿に春の訪れを感じる日々です。2月、今年度も残すところあとわずかとなり、子供たちはまとめとともに、次の学年へ向けた準備を着々と進めています。6年生にとっては卒業が間近となり、これまでの学びの集大成を意識する時期でもあります。保護者の皆さま、地域の皆さまには、これまでの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

さて、2月と言えば豆まき、節分です。今年は2月2日に当たります。節分は、日本の伝統的な行事であり、季節の変わり目に厄を払い、新しい季節の幸せを願う日です。「節分」という言葉は、もともと「季節を分ける」という意味を持ち、立春、立夏、立秋、立冬の前日を指していました。しかし、現在では特に立春の前日を「節分」と呼ぶのが一般的となりました。これは、立春が一年の始まりとされていた時代に、人々が新年を迎える準備として特に重要視していたためです。

節分に行われる「豆まき」は、悪いもの（邪気や鬼）を追い払い、福を招くための行事です。この習慣は平安時代の宮中行事に由来するそうです。鬼に見立てた者を追い払う儀式が行われていました。これが民間に広がり、室町時代には現在のように豆をまく形に変化したと言われています。豆を使う理由は、「魔を滅する（まめつ）」という語呂合わせや、豆が五穀の中でも特に神聖視されていたためだそうです。炒った豆を使うのは、使った豆を再び発芽させないようにすることで厄除けの効果を高めるという意味が込められています。

節分といえば「鬼」が登場しますが、鬼は何を象徴しているのでしょうか。鬼はもともと目に見えない災いや病気、邪悪な心を表しており、それを追い払うことが節分の目的です。現代の豆まきでは「鬼は外、福は内」と声を出しながら豆をまきますが、この言葉には「悪いものを外に追い出し、幸せを家の中に招き入れる」という願いが込められています。一部の地域では、「福は内」だけを唱える習慣や、「福を追い出さないように」と窓を開けずに豆まきを行う家庭もあります。

2月は1年のまとめとともに、よりよい新年を願う季節と言えます。一年を振り返りながら、新しい春、来年度がより良いものとなるよう、願いを込めて豆まきをしてみてはいかがでしょうか。学校では子供たちとともに、残りわずかな今年度を大切に過ごし、希望に満ちた新学年を迎えられるよう努めてまいります。

